

〔古今要覽稿器財〕あげはり帷幕幄

古書に帷幕と連ね用ゆるは、ひとへにまくといふことにて、○中これを用ゆるは、客來酒宴、普請露破の節張設ると三光院内府記いひ、其制は、六幅幕、八幅幕と、和名鈔引唐式あれども、七幅の物も延喜あり、近世は多く五幅を用ゆ、長さは一丈九尺五寸延喜式、二丈五尺體源抄、また三丈六尺大江真忠相傳近世は二丈八尺、これ一疋の布を用ゆる故と本朝軍器考いへり、其料は絹も布もあり、朝廷にて用ゆるもの、兵士の用ゆるもの皆同じく、當世は多く一重にて用ゆれども、古は必裏付るものにて、表料紺帛、裏紺帛といふこと延喜式、見えたり、色は多く紺を用ゆ、

〔延喜式三十一大藏〕造幄幕幔用度

純幕一字七表料紺帛二疋一丈六尺五寸、裁得七條長各一丈九尺五寸、二戸表料紺帛一疋一丈五尺已上並、其數各裁得十條長各七尺五寸、戸別充五條、紐卅六條長各一尺九寸、廣六寸四重、縫料緋紺絲各三兩、生絲七兩、長功日七人、中功日八人、短功日十人、

布幕一字六表料紺布二端三丈三尺、裁得六條長各一丈九尺五寸、二戸表料紺布一端一丈九尺六寸已上並、其數各裁得八條長各七尺九寸、戸別四條、紐卅條、長各一尺二寸、廣六寸四重、料紺布九尺、縫料生絲大二兩、長功日六人、中功日七人、短功日九人、

〔三中口傳三〕一庭上儀事

幔幕體事

幔幕事、幔ハ立サマニ繼、○繼一本作タリ、幕ハ横ニ繼也、大藏省主殿寮兩所ニ有之、○中幕ト云ハ紺ノ布ヲ横ニ四幅ヲ繼也、○中付柱テ屋ニ引ニハ用幕、

〔三代實錄四十八光孝〕仁和元年九月十四日乙未、造幕四條、料紺絶十四疋六尺、緋絶十四疋六尺、緋絲一

絢、生絲二絢、○中賜大學寮、先是式部省修解僂、大學頭從五位上兼守右少辨藤原朝臣佐世言曰、令